

科技高 いきもの記

Vol.38 2021.9.27

佐藤龍平

校庭にも絶滅危惧種がいた！ ショウリョウバッタモドキ

先日、生き物好きの卒業生のリュウセイが学校に遊びに来てくれた。高校卒業後はさっそく大学の近くにいる生き物を探しまくっていて、すでに珍しい虫をじゃんじゃん見つけているそう。さすがである。生き物談議（本当に生き物の話しかしてない）に花を咲かせていたら、全く話が尽きず、気づいたら2時間くらい話し込んでしまっていた。そんな中、ふとリュウセイが「**科技高の校庭でショウリョウバッタモドキを見たことがある。**」と教えてくれた。バッタ類（直翅類）に疎い私はすぐにはピンと来なかったが、なんでも、レッドデータブックで**東京都区部では絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されているバッタ**なのだそう。そんなことを言われると見てみたくないので、探してみることにした。



ショウリョウバッタモドキの生息環境
お世辞にも豊かな草原環境とは言えないが、このような小さな区画にも細々と命をつないでいる生き物がいることが分かった。

ランニングロードの脇には葉っぱが細長いイネ科の植物（チガヤ？）が結構たくさん生えている。いかにもバッタが好きそ

うなこれらの葉のあたりをじーっと見てみる。バッタ類は葉と色が似ていて紛れるとなかなか見つからないので、とにかく注意深く見て回るしかない。しばらく植込みを凝視し続けていると、細い葉の上でじっと動かない三角頭の小さなバッタを見つけた。**ショウリョウバッタモドキだ！**少しでも刺激するとすぐに葉の裏に逃げてしまう。ちょこちょこ動く姿が可愛い。

ショウリョウバッタモドキは「草丈の高いイネ科の植物が密に生えている環境」を好むようだ。都市部ではそういった環境が少なくなってしまう、このバッタの数も減っているらしい。学校とは言えこのような残された環境がいかに貴重であるのか思い知らされる。校庭脇の植

込みなど植物の多様性はたかが知れているが、そんな小さな環境でも細々と命をつないで、今なお絶滅せず人知れず生き残っている生き物がいるのだ。改めて思ったのだが、**科技高の校庭のポテンシャル、高くないか？！**

ところで、「ショウリョウバッタモドキ」という名前を聞くと、本家であるショウリョウバッタの「ニセモノ」のように聞こえてしまうかもしれない。〇〇モドキというのは、単に「〇〇に似ている」というだけだ。つまり、ショウリョウバッタモドキは運悪くショウリョウバッタよりも「後に見つかった」からこういう不名誉な名前がついてしまっただけで、見つかる順番が逆だったら名前も逆だったかもしれない。なんとも可哀想な話だ。同じように、生き物の名前には「**ニセ〇〇**」や「**〇〇ダマシ**」などもある。これらみんな可哀想な連中だ。ヒトのことをチンパンジーモドキやニセネアンデルタール人などと言ったら誰でも怒るだろう。だからショウリョウバッタモドキもきっと怒っているにちがいない。

参考文献：伊藤ふくお、村井貴史 (2011), バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑, 北海道大学出版会
東京都環境局 (2013), レッドデータブック東京：東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版 2013



校庭脇にいたショウリョウバッタモドキ（精霊飛蝗擬）のメス *Gonista bicolor*
東京都区部で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。ショウリョウバッタよりも小型で後ろ足は短い。跳ねるよりも飛ぶ方が得意なようだ。体長5cmほど。



葉の裏に隠れるショウリョウバッタモドキ
警戒心が強く、少し風が吹くだけで葉の裏に隠れてしまう。普段はじっと動かず葉っぱに紛れてしまうし、危険が迫ればすぐに逃げってしまうので、探すのは結構大変。



こちらが「モドキ」ではないショウリョウバッタのメス
Acrida cinerea

8cm以上ある日本最大のバッタで、後ろ足がとてもしつこく発達している。こちらも校庭脇で発見。